

加藤屋敷遺跡現地説明会資料

2006年10月27日(金曜日)
財団法人山形県埋蔵文化財センター

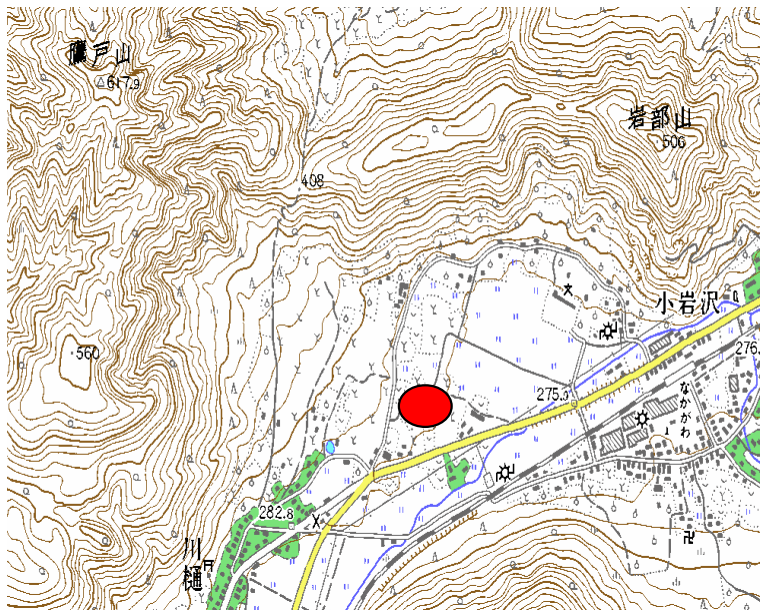


図1 遺跡位置図



調査区全景

調査要項	
遺 跡 名	加藤屋敷(かとうやしき)遺跡
遺跡番号	平成17年度登録
所 在 地	南陽市川樋字加藤屋敷
調査委託者	国土交通省東北地方整備局 山形河川国道事務所
調査原因	一般国道13号上山バイパス改築事業
調査面積	4,400㎡
現地調査	平成18年5月17日～11月24日
遺跡種別	集落跡
時 代	平安時代(縄文時代・古墳時代・中世)
遺 構	竪穴住居跡・井戸跡・溝跡・川跡
遺 物	土師器・須恵器・縄文土器
調査担当者	調査第一課長 野尻 侃 調査研究主幹 長橋 至 主任調査研究員 齋藤主税(調査主任) 調査研究員 佐藤 学
調査協力	置賜教育事務所・南陽市教育委員会

1 調査(遺跡)の概要

この度の調査は、一般国道13号上山バイパスの改築事業(中川工区)に伴う緊急発掘調査として行われました。昨年度、山形県教育委員会による試掘調査が行われ、本遺跡が確認・登録されました。その結果、事業区内の6,750㎡について記録保存が必要となり、財団法人山形県埋蔵文化財センターが委託を受け、発掘調査を行うことになりました。今年度は、そのうち工事用道路部分を除く、4,400㎡について発掘調査を実施しました。

調査の便宜上、調査区の南側から順にA区・B区・C区・D区・E区とし、①重機による表土除去②遺構検出③遺構精査・記録という工程で調査を進めました。

2 立地と環境

加藤屋敷遺跡は、J R中川駅から西へ約500mのところ、南陽市北東部の川樋地区に位置しています。鷹戸山と岩部山に囲まれた緩やかな傾斜地で、標高は280m程です。現在は、水田・畑地・果樹園などになっています。

また、周辺には、縄文時代晩期の集落跡と考えられている岩谷堂遺跡や、江戸時代に金毛和尚によってつくられた岩部山三十三観音があります。



A区井戸跡(SE1)



B区溝跡(SD2)から出土した
勾玉(まがたま)



B区溝跡(SD2)

3 遺構と遺物

検出された遺構は竪穴住居跡・柱根・井戸跡・溝跡・方形周溝状遺構・杭列・川跡などがあります。

A・B区では井戸跡や溝跡、柱穴群が検出されました。特に注目されるのはSD4です。形は弥生時代や古墳時代の方形周溝墓とまったくそっくりですが、出土した遺物は平安時代の土器でした。

C・D区では竪穴住居跡が見つっています。一辺3m～4mの四角形の形をしています。すべてに据付のカマドの跡が見つかりました。カマドは白い粘土で作られており焼けた土が混じり、住居跡を覆った他の土とははっきりと区別できました。また、どの住居跡から、木炭や焼け土が多く見つかり、住居跡から火事になった可能性があります。特にST20号住居跡からは炭や焼土が多量に見つっています。ほかに、この地区では、平安時代の土坑や杭が並んで立っている箇所が見つかりました。

E区からは砂で埋まった幅4m～7m、深さ2mの川跡が見つかり、中から平安時代の遺物が多数出土しています。

遺物は縄文時代・古墳時代・平安時代・中世・近世の各時代の遺物が出土しています。遺構はほとんどが平安時代のものですが、遺構以外からはいろんな時代の遺物が出土しています。古いほうから縄文時代後期の土器や石器・石斧、縄文時代の終わりごろの小型の壺形土器、古墳時代の勾玉が見つっています。

住居跡が埋まった土の中からは、平安時代の土師器・須恵器の甕(かめ)・土鍋(どなべ)・坏(つき)・蓋(ふた)などの土器が見つっています。遺構からではありませんが、平安時代と見られる木に文字の書かれた木簡が発見されています。E区の川跡からは平安時代の須恵器や土師器、木製品に混じってクルミやトチの実が多数出土しています。この他にも遺物包含層からは、中世の古銭・陶磁器や近世陶磁器も見つっています。

4 まとめ

加藤屋敷遺跡は平安時代の集落跡です。今のところ6棟の竪穴住居跡が見つっています。今回の調査区では比較的まばらな集落の様子がわかりました。

しかし、竪穴住居跡などの遺構を見つけるまでの表面から40cm～70cmの深さの土の中には、多数の平安時代の土師器・須恵器や縄文土器・石器などの遺物が含まれていました。この調査区は現在、雨が降ると砂が押し寄せ遺構が瞬間に埋まってしまう様な傾斜地で、平安時代も同様に周囲の土と一緒に隣接する縄文時代の遺跡から土器が流れ、それらが堆積したと考えられます。

このように、今回調査した地区は中心部分とは言えないようです。この調査地点よりも、もう少し上の平坦な場所に遺跡の中心があるものと考えられます。そのあたりは縄文時代晩期の岩谷堂遺跡といわれています。加藤屋敷遺跡・岩谷堂遺跡の一带は、縄文時代から古墳時代・中世・近世にわたる複合遺跡となる可能性があります。



B区方形周溝状遺構(SD4)



C区竪穴住居跡(ST7)



C区竪穴住居跡(ST7)のカマド



D区から出土した須恵器の短頸壺蓋(RP6)



D区から出土した縄文晩期の小壺(RP7)



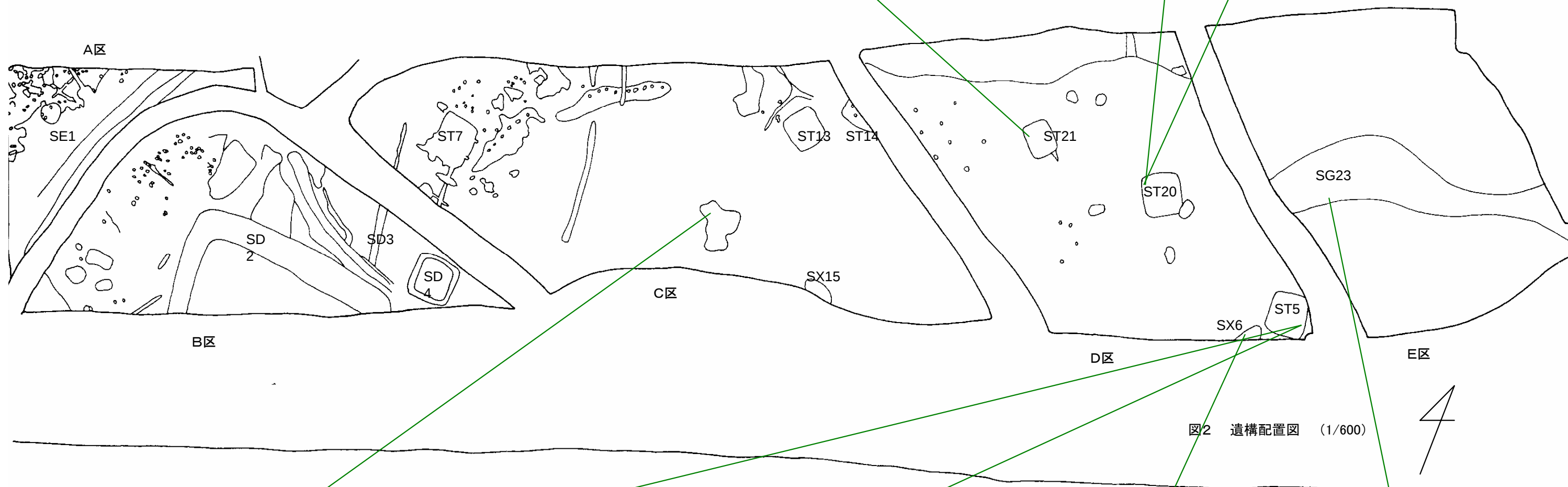
D区竪穴住居跡(ST21)



D区竪穴住居跡(ST20)



D区竪穴住居跡(ST20)の遺物出土状況



C区木筒と思われる木製品(RW17)の出土状況



D区竪穴住居跡(ST5)



D区竪穴住居跡(ST5)のカマド



D区性格不明遺構(SX6)の土器出土状況



E区河川跡(SG23)